

事例：No. 6

【壊れにくい作業路の開設と機械化によるコスト削減】

1. 林業事業体等名称 有限会社 ^{おおすがりんぎょう} 大須賀林業 (福島県天栄村)

2. 林業事業体等の概要

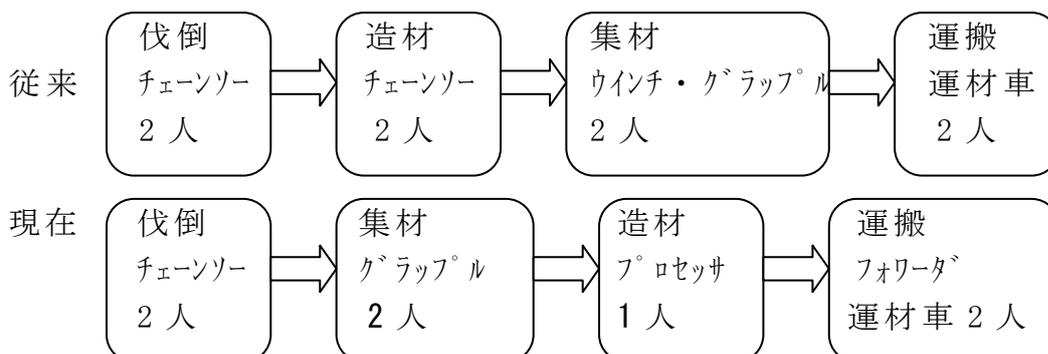
- ①年間素材生産量 3,500m³ (うち 間伐の占める割合 80%)
- ②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 7名 (7名×1セット)

3. 取組の特長

- ・ 県のリース事業を活用した高性能林業機械の導入と機動力を発揮できるよう路網の作設を積極的に推進している。
- ・ 緑の雇用の研修生4名を始め若い人材が集まり、高性能林業機械のオペレーターとして技術が成熟してきている。
- ・ また、現地研修会を開催しオペレーターの技術研鑽に努めている。

4. 具体的な内容

- ① 高性能林業機械等を活用した作業内容
フォワーダ（リース）1台、プロセッサ1台、グラップル3台、運材車（20ps～）2台を保有し、作業路の作設と併せて作業効率を高めている。
- ② 作業路作設方法
自社研修により鍛練されオペレーターにより直営作業で作設する。
急峻な地形では、プロセッサ及びフォワーダの通行に必要な最低限の幅員（3.0m）とし、掘削面はできる限り小さくし、崩壊等が発生しにくい構造とする。
- ③ 作業システムの比較（間伐の場合）



現在は、全幹で作業路上に集材し、プロセッサによる造材を行うことにより、作業員の人力労働力軽減を図っている。

5. 今後の取組等

- ・ 路網作設オペレーター養成初級研修修了者（2名）に対し中級資格の取得支援を行い、自社研修において建設機械に携わる全ての作業員に安全で壊れにくい作業路作設の知識を習得する。
- ・ 従来行われていた路網作設方法に加えて、崩れない低コスト路網の作設により高性能林業機械を含む林業全般の安全な素材生産と木材の安定供給を図って行きたい。

資料：写真



① 路側の丸太組み



② 沢部の洗い越し

【報告者】

福島県農林事務所

林業普及指導員 吉成 吉美